

【表紙】

【提出書類】 半期報告書の訂正報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年1月16日

【中間会計期間】 自 2023年1月1日 至 2023年6月30日

【会社名】 クレディ・アグリコル・エス・エー  
(Crédit Agricole S.A.)

【代表者の役職氏名】 最高経営責任者代理  
ジェローム・グリヴェ  
(Jérôme GRIVET, Deputy Chief Executive Officer)

【本店の所在の場所】 フランス、セデックス、モンルージュ、92127、  
合衆国広場 12番地  
(12, place des États-Unis 92127 Montrouge Cedex France)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 小林 穰

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03-6775-1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 安藤 紘人  
弁護士 樋口 政隆  
弁護士 佐野 美由香  
弁護士 岡田 行希

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03-6775-1107  
06-6485-5731  
03-6775-1673  
03-6775-1816

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

## 1 【提出理由】

2023年9月28日に提出いたしました2023年6月30日に終了した6ヶ月間に係る半期報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2 【訂正事項】

訂正箇所は下線を付して表示しております。

# 第一部 【企業情報】

## 第1 【本国における法制等の概要】

### 1 会社制度等の概要

#### (1) 提出会社の属する国・州等における会社制度

<訂正前>

**(C) 以下の記載は、協同組合銀行および相互銀行全般に適用されるフランス通貨金融法典の特定の規定の概略である。**

(後略)

<訂正後>

**(A) 以下の記載は、当行を含む上場株式会社に適用されるフランス商法の主要な規定の概略である。**

(中略)

#### h) 経営

(中略)

・毎年3月1日(2021年度は例外的に2022年9月1日まで)に、前年度の上級管理者(cadres dirigeants)および経営機関(instances dirigeantes)における男女比を示す統計を発表すること。かかる統計は、会社のウェブサイトで公表するものとし、ウェブサイトがない場合には、会社の従業員に何らかの手段で伝達しなければならないと定められている。また、2023年3月1日以降、かかる統計はフランス労働省(ministère chargé du travail)のウェブサイトでも毎年公表されている。

(中略)

**(C) 以下の記載は、協同組合銀行および相互銀行全般に適用されるフランス通貨金融法典の特定の規定の概略である。**

(後略)

## 第3 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

<訂正前>

(前略)

#### リスク管理

(中略)

### 3. 資産および負債管理

(中略)

#### 3.1 2023年6月30日現在のキャッシュ・バランスシート

(中略)

預金供託金庫において清算される預金は、キャッシュ・バランスシートの作成上相殺されないことは、注意を要する。集約された預金の金額（2023年6月末現在91十億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の資産および「顧客関連資金」の負債に計上される。

最終段階においては、会計基準上いずれかの部に分類される残高について、別の部に経済的関係がある場合は、その他の修正再表示が行われる。したがって、会計基準上「長期市場資金」に分類されるであろう、銀行ネットワークを通じて行われた優先発行、ならびに欧州投資銀行、預金供託金庫およびその他同種の借換取引（顧客貸出金によって裏付けられる。）による資金調達は、「顧客関連資金」に分類変更された。

（中略）

### バーゼル3第3の柱に基づく開示

（中略）

---

## 2. リスク加重資産の構成および変化

---

### 2.1 リスク加重資産の概要

（中略）

#### 2.1.3 リスク加重資産の動向

（中略）

CACFおよびステランティスのパートナーシップ再構築に関連するM&Aは、リスク加重資産のプラス2.7十億ユーロの増加に寄与し、手法および規制の影響は当半期においてマイナス3.3十億ユーロのプラスの影響をもたらした。

（後略）

<訂正後>

（前略）

### リスク管理

---

（中略）

## 3. 資産および負債管理

（中略）

### 3.1 2023年6月30日現在のキャッシュ・バランスシート

（中略）

フランス預金供託金庫において清算される預金は、キャッシュ・バランスシートの作成上相殺されないことは、注意を要する。集約された預金の金額（2023年6月末現在91十億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の資産および「顧客関連資金」の負債に計上される。

最終段階においては、会計基準上いずれかの部に分類される残高について、別の部に経済的関係がある場合は、その他の修正再表示が行われる。したがって、会計基準上「長期市場資金」に分類されるであろう、銀行ネットワークを通じて行われた優先発行、ならびに欧州投資銀行、フランス預金供託金庫およびその他同種の借換取引（顧客貸出金によって裏付けられる。）による資金調達は、「顧客関連資金」に分類変更された。

（中略）

### バーゼル3第3の柱に基づく開示

（中略）

---

## 2. リスク加重資産の構成および変化

---

### 2.1 リスク加重資産の概要

（中略）

#### 2.1.3 リスク加重資産の動向

（中略）

クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンス（CACF）およびステランティスのパートナーシップ再構築に関連するM&Aは、リスク加重資産のプラス2.7十億ユーロの増加に寄与し、手法および規制の影響は当半期においてマイナス3.3十億ユーロのプラスの影響をもたらした。

（後略）

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (3) 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

<訂正前>

#### クレディ・アグリコル・グループ

(前略)

#### 当行グループの業績

(中略)

**信用リスク費用(参考値)**は、マイナス854百万ユーロとなり、これは、マイナス615百万ユーロであった2022年度第2四半期と比較して39%の増加であった。2023年度第2四半期におけるマイナス854百万ユーロの費用の内訳は、正常貸出金(ステージ1および2)に対する引当金マイナス154百万ユーロ(2022年度第2四半期はマイナス220百万ユーロ)、実証されたリスク(ステージ3)に対する引当金マイナス697百万ユーロ(2022年度第2四半期はマイナス401百万ユーロ)(かかる減少は、主要なフランス国内バンキング業務の債務不履行ならびにリテール・バンキングおよび消費者金融における実証されたリスクの増加によるものである。)およびその他のリスクに対する引当金マイナス3百万ユーロである。引当金レベルは、これまでの四半期と同様に、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、感応度の高いポートフォリオに調整を適用することにより決定された。当該第2四半期の加重経済シナリオは、有利なシナリオ(フランスのGDPは2023年度にプラス1%、2024年度にプラス2.4%)および不利なシナリオ(フランスのGDPは2023年度にプラス0.1%、2024年度にマイナス0.1%)により更新された。**連続する4四半期間における残高に対する信用リスク費用<sup>(2)</sup>は25ベシス・ポイントであり、これは中期計画の前提である25ベシス・ポイントに沿うものであった。**四半期の年換算<sup>(3)</sup>では29ベシス・ポイントであった。

(中略)

**その他の資産に係る純利益**は、2023年度上半期において、2022年度上半期の35百万ユーロに対して10百万ユーロとなった。**非継続事業および非支配株主持分控除前税引前利益(参考値)**は8.8%増加し、5,773百万ユーロとなった。法人所得税は、2022年度上半期と比較して5.3%増のマイナス1,422百万ユーロであり、実効税率(参考値)は1.2パーセント・ポイント減の25.4%であった。したがって、非支配株主持分控除前当期純利益(参考値)は11.4%増加した。非支配株主持分は、2023年度上半期において、11.4%増のマイナス415百万ユーロとなった。

(中略)

#### 地域銀行

(中略)

**顧客資産総額**は前年度比で3.3%増加し、2023年6月末現在866十億ユーロに達した。この増加は、オンバランスシート預金によるものであり、2023年6月末現在579十億ユーロに達し、2022年6月末と比較して2.7%増加した(通帳式口座の9.9%増および定期預金の64.5%増を含む)。2023年度第1四半期と比較して、オンバランスシート預金は0.5%増加した。オフバランスシート顧客資産は、2023年6月末現在287十億ユーロに達し、前年度比で4.6%増加した。

(中略)

2023年度第2四半期において、**特別項目**は、収益に41百万ユーロのプラスの影響(当期純利益-当行グループの持分にも同様の影響)をもたらし、「小切手画像」処理に対する引当金の戻入に関連していた。2022年度第2四半期において、**特別項目**は、収益に342百万ユーロの影響(当期純利益-当行グループの持分に254百万ユーロの影響)をもたらし、住宅購入貯蓄制度の引当金の戻入に相当した。

(中略)

#### 財務の堅実性

#### クレディ・アグリコル・グループ

(中略)

クレディ・アグリコル・グループの**リスク加重資産**は、2023年3月31日と比較して11.6十億ユーロ増加して595.8十億ユーロとなった。かかる増加のうちプラス9.2十億ユーロが**事業部門の有機的成長**(外国為替を含む)によるものであり、そのうちプラス2.1十億ユーロが地域銀行のリスク加重資産であった。CACFとステラントの提携の再構築に関連したM&Aはリスク加重資産の増加にプラス2.7十億ユーロ寄与した一方、方法論および規制の影響は、当四半期においてマイナス0.3十億ユーロのわずかな**プラス**の影響を与えた。

(中略)

## クレディ・アグリコル・エス・エー

(中略)

クレディ・アグリコル・エス・エーのリスク加重資産は、2023年6月30日現在376.9十億ユーロとなり、2023年3月31日現在と比較して8.8十億ユーロ増加した。事業部門のリスク加重資産の寄与（外国為替の影響を含む。）はプラス6.4十億ユーロであり、これには、クレディ・アグリコル・オート・バンクの設立で生まれた強い勢いにより専門金融サービス部門のリスク加重資産が5.2十億ユーロ増加したこと、主に市場リスク加重資産（トレーディング勘定におけるVaR、SVaRおよびカウンターパーティ・リスク）の増加により大口顧客部門のリスク加重資産が2.9十億ユーロ増加したこと、および2022事業年度の最終配当金の支払いに伴う持分法適用価額の減少により保険部門のリスク加重資産が1.9十億ユーロ減少したことが含まれる。CACFとステラントの提携の再構築に関連したM&Aはリスク加重資産の増加にプラス2.7十億ユーロ寄与した一方、方法論および規制の影響は、当四半期においてマイナス0.3十億ユーロのわずかなプラスの影響を与えた。

(中略)

## 流動性および資金調達

(中略)

最終段階においては、経済的関係がある場合は会計基準上どちらかの部に分類される残高について、その他の修正再表示が行われた。したがって、会計基準上「中長期市場資金」に分類されるであろう、銀行ネットワークを通じて行われた優先発行、ならびに欧州投資銀行、預金供託公庫およびその他の同種の借換取引（顧客貸出金によって裏付けられる。）による資金調達は、「顧客関連資金」に分類変更された。

(中略)

クレディ・アグリコル・グループ – 2023年6月30日現在の中長期市場資金調達



(後略)

<訂正後>

## クレディ・アグリコル・グループ

(前略)

## 当行グループの業績

(中略)

信用リスク費用（参考値）は、マイナス854百万ユーロとなり、これは、マイナス615百万ユーロであった2022年度第2四半期と比較して38.8%の増加であった。2023年度第2四半期におけるマイナス854百万ユーロの費用の内訳は、正常貸出金（ステージ1および2）に対する引当金マイナス154百万ユーロ（2022年度第2四半期はマイナス220百万ユーロ）、実証されたリスク（ステージ3）に対する引当金マイナス697百万ユーロ（2022年度第2四半期はマイナス401百万ユーロ）（かかる減少は、主要なフランス国内バンキング業務の債務不履行ならびにリテール・バンキングおよび消費者金融における実証されたリスクの増加によるものである。）およびその他のリスクに対する引当金マイナス3百万ユーロである。引当金レベルは、これまでの四半期と同様に、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、感応度の高いポートフォリオに調整を適用することにより決定された。当該第2四半期の加重経済シナリオは、有利なシナリオ（フランスのGDPは2023年度にプラス1%、2024年度にプラス2.4%）および不利なシナリオ（フランスのGDPは2023年度にプラス0.1%、2024年

度にマイナス0.1%)により更新された。連続する4四半期間における残高に対する信用リスク費用<sup>(2)</sup>は25ベシス・ポイントであり、これは中期計画の前提である25ベシス・ポイントに沿うものであった。四半期の年換算<sup>(3)</sup>では29ベシス・ポイントであった。

(中略)

その他の資産に係る純利益は、2023年度上半期において、2022年度上半期の35百万ユーロに対して10百万ユーロとなった。非継続事業および非支配株主持分控除前税引前利益(参考値)は8.8%増加し、5,773百万ユーロとなった。法人所得税は、2022年度上半期と比較して5.3%増のマイナス1,422百万ユーロであり、実効税率(参考値)は1.2パーセント・ポイント減の25.4%であった。したがって、非支配株主持分控除前当期純利益(参考値)は9.3%増加した。非支配株主持分は、2023年度上半期において、11.4%増のマイナス415百万ユーロとなった。

(中略)

## 地域銀行

(中略)

顧客資産総額は前年度比で3.3%増加し、2023年6月末現在866十億ユーロに達した。この増加は、オンバランスシート預金によるものであり、2023年6月末現在579十億ユーロに達し、2022年6月末と比較して2.7%増加した(通帳式口座の9.9%増および定期預金の65.4%増を含む)。2023年度第1四半期と比較して、オンバランスシート預金は0.5%増加した。オフバランスシート顧客資産は、2023年6月末現在287十億ユーロに達し、前年度比で4.6%増加した。

(中略)

2023年度第2四半期において、特別項目は、収益に42百万ユーロのプラスの影響(当期純利益-当行グループの持分にも同様の影響)をもたらし、「小切手画像」処理に対する引当金の戻入に関連していた。2022年度第2四半期において、特別項目は、収益に342百万ユーロの影響(当期純利益-当行グループの持分に254百万ユーロの影響)をもたらし、住宅購入貯蓄制度の引当金の戻入に相当した。

(中略)

## 財務の堅実性

### クレディ・アグリコル・グループ

(中略)

クレディ・アグリコル・グループのリスク加重資産は、2023年3月31日と比較して11.6十億ユーロ増加して595.8十億ユーロとなった。かかる増加のうちプラス9.2十億ユーロが事業部門の有機的成長(外国為替を含む)によるものであり、そのうちプラス2.1十億ユーロが地域銀行のリスク加重資産であった。CACFとステランティスの提携の再構築に関連したM&Aはリスク加重資産の増加にプラス2.7十億ユーロ寄与した一方、方法論および規制の影響は、当四半期においてマイナス0.3十億ユーロのわずかな好影響を与えた。

(中略)

### クレディ・アグリコル・エス・エー

(中略)

クレディ・アグリコル・エス・エーのリスク加重資産は、2023年6月30日現在376.9十億ユーロとなり、2023年3月31日現在と比較して8.8十億ユーロ増加した。事業部門のリスク加重資産の寄与(外国為替の影響を含む)はプラス6.4十億ユーロであり、これには、クレディ・アグリコル・オート・バンクの設立で生まれた強い勢いにより専門金融サービス部門のリスク加重資産が5.2十億ユーロ増加したこと、主に市場リスク加重資産(トレーディング勘定におけるVaR、SVaRおよびカウンターパーティ・リスク)の増加により大口顧客部門のリスク加重資産が2.9十億ユーロ増加したこと、および2022事業年度の最終配当金の支払いに伴う持分法適用価額の減少により保険部門のリスク加重資産が1.9十億ユーロ減少したことが含まれる。CACFとステランティスの提携の再構築に関連したM&Aはリスク加重資産の増加にプラス2.7十億ユーロ寄与した一方、方法論および規制の影響は、当四半期においてマイナス0.3十億ユーロのわずかな好影響を与えた。

(中略)

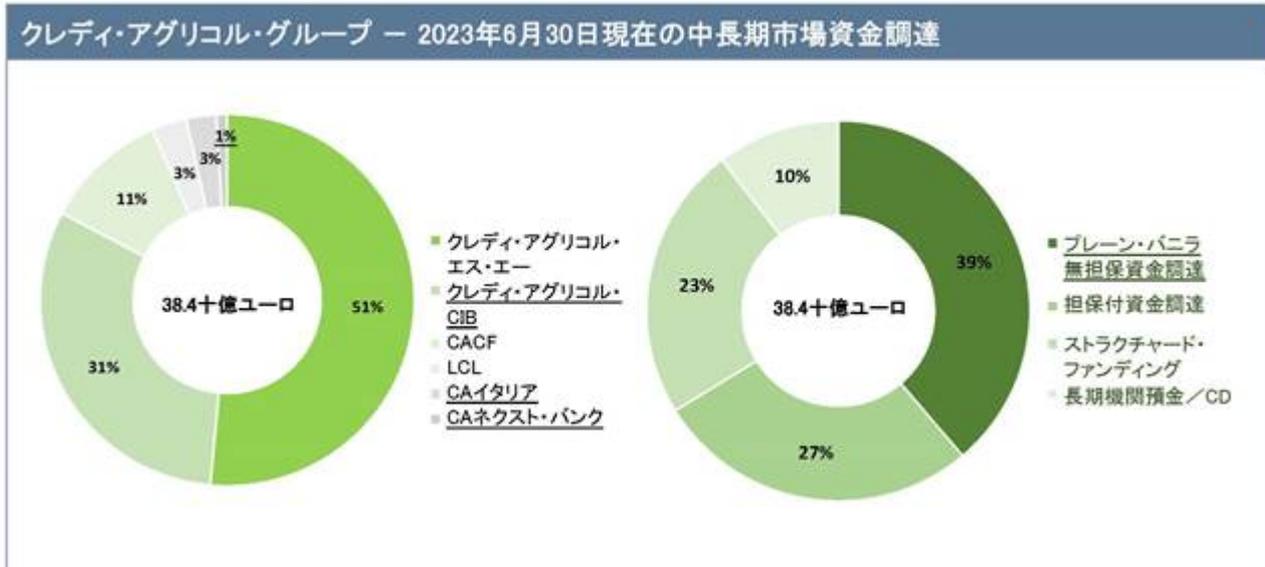
## 流動性および資金調達

(中略)

最終段階においては、経済的関係がある場合は会計基準上どちらかの部に分類される残高について、その他の修正再表示が行われた。したがって、会計基準上「中長期市場資金」に分類されるであろう、銀行ネッ

トワークを通じて行われた優先発行、ならびに欧州投資銀行、フランス預金供託公庫およびその他の同種の借換取引（顧客貸出金によって裏付けられる。）による資金調達は、「顧客関連資金」に分類変更された。

（中略）



（後略）

## 第5 【提出会社の状況】

### 2 【役員の状況】

#### 新任の会社役員

< 訂正前 >

**ギヨーム・メートル**

( 中略 )

当初選任日：2023年6月21日

( 中略 )

**オリヴィエ・ピトン**

・CA-GIP (クレディ・アグリコル・グループ・インフラストラクチャー・プラットフォーム) のジェネラル・マネージャー

( 後略 )

< 訂正後 >

**ギヨーム・メートル**

( 中略 )

当初選任日：2023年8月3日

( 中略 )

**オリヴィエ・ピトン**

・CA-GIP (クレディ・アグリコル・グループ・インフラストラクチャー・プラットフォーム) の最高経営責任者

( 後略 )

## 第6 【経理の状況】

### 1 【中間財務書類】

< 訂正前 >

( 前略 )

(4) 要約中間連結財務書類に対する注記

( 中略 )

#### 注記3 信用リスクおよびヘッジ取引

( 中略 )

#### 第3のシナリオ：「有利な」シナリオ

( 中略 )

ユーロ圏では、インフレ率は2024年に平均2.5%、2025年から2026年には約2%に低下する。2020年から2021年の間に蓄積された貯蓄余剰からの支出が増加し購買力および消費が改善する効果により、家計と企業の期待は好転する。信頼感の改善、エネルギー価格の低下、官民投資を刺激するための施策は、2024年からの投資支出の回復につながる。

( 後略 )

< 訂正後 >

( 前略 )

(4) 要約中間連結財務書類に対する注記

( 中略 )

#### 注記3 信用リスクおよびヘッジ取引

( 中略 )

#### 第3のシナリオ：「有利な」シナリオ

( 中略 )

ユーロ圏では、インフレ率は2024年に平均2.5%、2025年から2026年には約2%に低下する。2020年から2021年の間に蓄積された貯蓄余剰からの支出が増加し購買力および消費が改善する効果により、家計と企業の期待は好転する。信頼感の改善、エネルギー価格の低下、官民投資を刺激するための施策は、2024年からの投資支出の回復につながる。

( 中略 )

( 末尾に以下の記載を挿入する。 )

#### ブライスウォーターハウスクーパース・ オーディット

フランス、セデックス、ヌイイー - シュール -  
セーヌ、92208、ヴィリエ通り63番地  
2,510,460ユーロの資本金を有するフランスの単  
純型株式会社 ( société par actions  
simplifiée )  
ナンテール商業・会社登記簿に672 006 483番と  
して登録

#### 法定監査人

ベルサイユおよび中央地区会計監査人地域協会会  
員

#### アーンスト・アンド・ヤング・エ・オートル

フランス、セデックス、パリ - ラ・デファンス、  
92037、TSA 14444、ツール・ファースト  
変動資本を有するフランスの単純型株式会社  
( société par actions simplifiée )  
ナンテール商業・会社登記簿に438 476 913番と  
して登録

#### 法定監査人

ベルサイユおよび中央地区会計監査人地域協会会  
員

## 中間財務情報に対する法定監査人のレビュー報告書

(2023年1月1日から6月30日までの期間)

### クレディ・アグリコル・エス・エー

フランス、セデックス、モンルージュ、92127、合衆国広場 12番地

これは、フランス語で発行されたクレディ・アグリコル・エス・エーの中間財務情報に関する法定監査人のレビュー報告書の日本語訳であり、日本語圏の読者の便宜のためにのみ提供されるものである。本報告書には、当行グループの中間経営者報告書の特定の検証に関する情報が含まれている。本報告書は、フランス法およびフランスにおいて適用される専門的基準と共に、かつそれらに準拠して解釈されるものとする。

私たちは、クレディ・アグリコル・エス・エーの年次株主総会の委任に従い、またフランス通貨金融法典 (Code monétaire et financier) 第L.451-1-2 条の要件に準拠して、以下の項目について報告する。

- 2023年1月1日から2023年6月30日までの期間の添付のクレディ・アグリコル・エス・エーの要約中間連結財務書類のレビュー
- 中間経営報告書に提示されている情報の検証

本要約中間連結財務書類は、取締役会が責任を負う。私たちの責任は、私たちのレビューに基づきこれらの財務書類に対する結論を表明することにある。

#### . 財務書類に対する結論

私たちはフランスで適用される専門的基準に準拠してレビューを実施した。

中間財務情報のレビューは、主として財務および会計事項の責任者への質問、ならびに分析その他のレビュー手順の実施から構成される。レビューは、フランスで適用される専門的基準に準拠して実施される監査と比較して大幅に小規模であり、したがって監査であれば識別された可能性のある重要事項のすべてを把握したとの確信を私たちが得ることはできない。よって、私たちは監査意見を表明するものではない。

私たちのレビューに基づけば、添付の要約中間連結財務書類が、全ての重要な点について、中間財務情報に適用される欧州連合のIFRSの基準であるIAS第34号に準拠して作成されていない、との考えを私たちに抱かせる事項は一切目に留まらなかった。

上記の結論を限定することなく、注記1.1「適用された基準および比較可能性」および注記1.2「会計方針および会計原則」ならびに以下の変更の影響に関連する数値を示す要約中間連結財務書類のその他の注記に記載されている、IFRS第17号「保険契約」の2023年1月1日からの適用に伴う会計方法の変更に注意されたい。

#### . 特定の検証

私たちは、レビュー対象の要約中間連結財務書類に関する、中間経営報告書に提示されている情報についても検証を行った。

当該報告書の表示の公正性および要約中間連結財務書類との整合性について、私たちが報告すべき事項はない。

ヌイイ・シュール・セーヌおよびパリ・ラ・デファンス 2023年8月8日

法定監査人

プライスウォーターハウスクーパース・

オーディット

アニエス・ユセール

アーンスト・アンド・ヤング・

エ・オートル

ヴァネッサ・ジヨリヴァルト